令和５年度専門領域推進部神経理学療法領域勉強会 活動報告書

日 時：令和 6 年 2 月 15 日（木） 19 時～20 時
形 式：オンライン開催（Zoom）
内 容：講義 『ロボットリハビリテーションについて考える』
情報提供者：佐藤　辰彦　氏（日本海酒田リハビリテーション病院 脳卒中認定理学療法士）
参加者：５６ 名

内容の詳細：

ロボットリハビリテーションは，脳卒中や脊髄損傷などで生じる歩行障害に対するニューロリハビリテーションの一環として位置づけられる。しかし、まだリハビリテーション職種にも十分な知識がある訳ではなく、また高額な導入費もかかることから各医療機関・介護施設で普及が進んでいない現状である。

佐藤氏より、ロボットリハビリテーションについての定義や分類の説明があり、佐藤氏が臨床で実際に使用した Orthobot®（オルソボット：歩行学習支援ロボット）の説明がなされた。Orthobot®は、モーターとセンサーを内蔵した本体ユニットを歩行リハビリテーションにおいて KAFO（長下肢装具）に取り付けるだけで、簡便に正常な歩行を体験させることが可能になる装着型アシストロボットである。また、比較的装着も行いやすく、歩行再建に向けた適切な下肢関節角度の誘導や、反復練習に伴う運動学習が実現できる。重度の運動障害を有する症例には適応が難しいといった面も考えられたが、機器の特性を理解し対象者への利害を考慮することで、脳卒中患者や脊髄損傷患者にとっての歩行能力向上に寄与することをご教授頂いた。

参加者からは、Orthobot®の適応に関する質問や病態に合わせた機器の調整についても意見があり参加者の興味・関心につながった様子が伺えた。

まとめとして、佐藤氏より今後エビデンスの構築とともに普及していくと予想されるロボットリハビリテーションについて、我々専門職は運動分析やクリニカルリーズニングを基に適切にロボットを活用できる能力が必要であることを述べられ当勉強会を終了した。

文責：新庄徳洲会病院　戸谷泰秀